



学校だより

錦城の詩

平成25年(2013年)

1月7日(第16号)

明石市立錦城中学校

新年明けましておめでとうございます

校長 荒井 拓

平成25年、西暦2013年。明けましておめでとうございます。巳年。ご家族揃って、穏やかなお正月を迎えられたことと思います。本年も錦城中学校をよろしくお願いいたします。さて、今日から3学期。学級、学年、学校としてのまとめの時期であります。昔から1月に行く、2月は逃げる、3月は去るとか表現し、感覚的時間の短さが強調されますが、この短い時間のうちにしなければならない事が山ほどあります。特に3年生は、中学時代の最後のまとめと、進路決定という人生で重大な時期を迎えようとしています。長い人生の中で、中学校時代がどう輝くのか。錦城に来たからこそ学べたことが何なのか。次に繋がるベクトルがどの向きになるのかは、ひよっとしたら3学期の過ごし方、過ごさせ方で大きく異なることになるかもしれません。家庭・地域の方々とともに、最後まで子どもたちを鍛え、練っていけたらと思っております。

どうか、どうか、よろしくお願いいたします。勿論、皆様のご多幸も願っております。



本校玄関掲示板
(職員 石井さん作)

◎テニス部男女、寒風の中、健闘する!

- ・12月25日吉川総合公園で開催された「のじぎくCUP(1年生東播大会)」。男子2ペア女子1ペア出場。3回戦まで勝ち上がるも惜しくも敗退。次回雪辱を期して。
- ・12月27日滋賀県長浜ドームで開催された近畿大会。冷たい冷たい中、頑張ったけれど奈良県ペアに惜敗。よく頑張り、チームとして心・技とも大きく成長できたはず。去年の宝物だ。

◎「全国中学生人権作文コンテスト」兵庫県明石・三木地区大会において表彰される! 優秀賞「いらぬ命はあるのか」(2年生)

(前略) 命を選別するというのは、神様の領域ではないのか。人間がしてもいいことなのだろうか。神ではない人間が、本当に正しい選択ができるのだろうか。逆に、もしも自分が親からいらぬ命と選別され、中絶され、殺されるとしたら…。(中略) 妹のような社会的立場の弱い障害児が笑顔でいきいき暮らせる社会が理想の社会なのだ。一番弱い者が大切にされているということは、社会全体・全員が大切にされていると言えるからだ。(中略) 妹の命は、いらぬ命では絶対ない。社会にとって、人間にとって、たくさんの大切なことを教えてくれ学ばせてくれる存在なのだ。人間の心を人間らしくやさしいものにしてくれる意味のある大切な存在であり、命なのだと思う。

奨励賞「家族の大切さ」(3年生)

(前略) いじめ。特に両親は唯一本音を話せる人です。だから、両親だけでも味方になってあげてほしいと思います。私たちがいれば大丈夫と「家族の力」を見せてあげてほしいと思います。私も家族の支え、家族の優しさがあったから今の自分がいると思います。家族とは、生きる財産です。(中略)「家族の力」は偉大です。

奨励賞「障がいのある妹」(1年生)

(前略) 相手をする周りの人も大変だが、一番大変で辛いのはやはり妹自身だという事なのだと思ふ。なので、僕が我慢しなければならないとか、大変だと思ふことは、妹の苦しさに比べれば大したことではないのかもしれない。(中略)「世の中、障がいがないでも不幸な人はたくさんいる。障がいがあることは不便で大変な事はたくさんあるだろうが、決して不幸ではない」僕はこの言葉に、すごく共感した。

※一部抜粋で作者の意図が十分伝わらないことをお詫びします。

◎男子バレー部、ついに栄冠を勝ち取る。小野市近郊招待試合で優勝!

冬休みに入った12月25日(クリスマス)。小野市立小野中学校で開催された大会で見事優勝!この大会は、新人総体東播大会上位校が招待されて開かれている強豪が集まる大会。1回戦対稲美中。2回戦対泉中。決勝戦対西脇中。苦しい場面も多々あったけれど、レシーブ力、サーブ力、チーム力を発揮してたった10人の戦士で、全て2-0の完全優勝。立派の一言に尽きる。右のような優勝旗をいただけてきました。職員室に飾っています。

